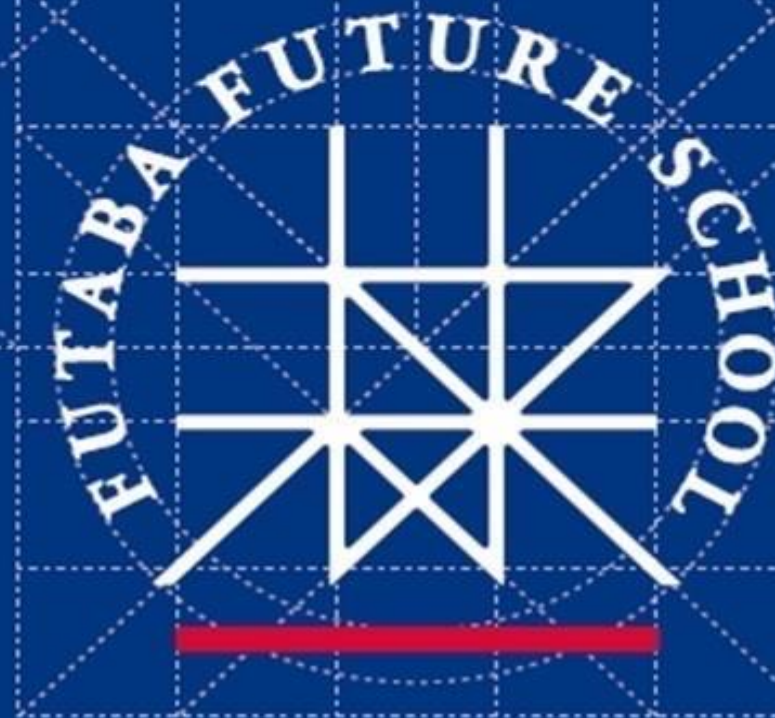


# 生徒の学びを最大化する 探究カリキュラム と指導体制の研究・開発を目指して

## 本日の流れ

- 1 学校の概要
- 2 未来創造探究の10年の変化
- 3 高度な学びを届ける仕掛けづくり
- 4 指導体制の確立(教員研修)
- 5 まとめ

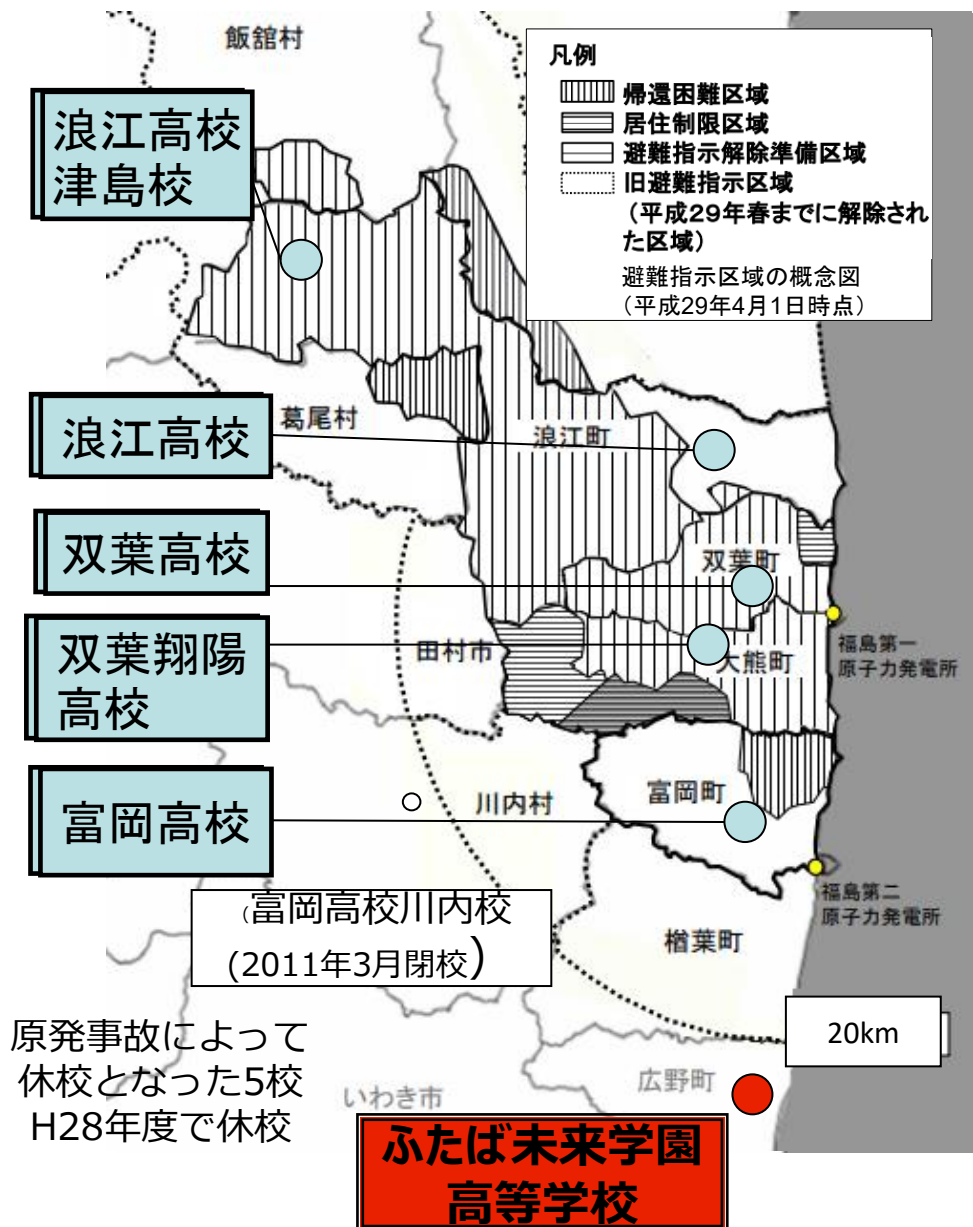


# 1 学校の概要

- 1-1 学校の概要
- 1-2 建学の精神と理念
- 1-3 育てたい人材像(ルーブリック)
- 1-4 WWLコンソーシアム構築支援  
事業ポンチ図



# 1-1 学校の概要



震災で休校となった5校の伝統を  
引き継ぐ学校を作る

＜沿革＞

H27 開校、SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)指定

H31 新校舎完成・併設型中高一貫校

R2 地域との協働による高等学校教育改革  
推進事業(グローバル型)指定(～R4)

R5 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム  
構築支援事業指定(～R7)

現在は創立10年目



# 1-2 学校の概要（建学の精神と理念）

震災と原発事故という、人類が経験したことがないような災害にみまわれた、わたしたちは、**解決困難な様々な課題に直面**

これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、**新しい生き方、新しい社会の建設**を目指さなければならない。

## 【教育目標】

自らを変革し、  
地域を変革し、  
社会を変革していく  
**「変革者」**  
を育成する

### ○『変革者』として必要な資質・能力を育成

- どんなに困難な問題に対しても、論理的思考力、課題発見・解決力、強い志と使命感を持って、何度失敗しても挑戦し続ける**「主体性」**
- 異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築し多様な主体と共に力を合わせる**「協働性」**
- 新しい生き方、産業、社会をつくりだしていく**「創造性」**

### ○ 目指す学校像

- 生徒が主体的に動く学校
- 失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え、応援する学校
- 現実社会の中で学ぶ学校
- 地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校
- 夢を開く窓がたくさんある学校

## ふたば未来学園の教育理念

### ○校訓（大切にすべき姿勢）

**自立** 自分の頭で考え抜き、自ら行動する

**協働** 多様な主体と共に力を合わせる

**創造** 新しい生き方、新しい社会をつくる

# 1-3 学校の概要(育てたい人材像【ルーブリック】)

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 人材育成要件・ルーブリック(6 April 2021 Ver.)

| 学力概念                                                            | No  | 資質・能力・態度(まとも)                                                        | レベル1                                                 | レベル2                                             | レベル3                                                            | レベル4                                                         | レベル5                                                            |
|-----------------------------------------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 知識<br>Knowledge "What we know"                                  | A   | 社会的課題に関する知識・理解<br>一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に付ける。  | 地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。                            | 地域の課題に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。               | 環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。             | 社会の課題について、習得した知識を整理し、周辺情報や関連情報を体系的に理解する。                     | 社会の課題について、目の前の課題と関連する知識を併用してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。               |
|                                                                 | B   | 英語活用力<br>英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。                                  | 英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。 | 自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。                    | 地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(OEFA-BL-6)               | 地域や研究内容について、動画を英語でスピーチし、意見交換ができる。(OEFA-BL-6)                 | 地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説明力を持って主張し、議論できる。(OEFA-BL-6) |
| 思考力<br>Thinking "How we think"                                  | C-1 | 思考力<br>物事を論理的に考え、批判的思考で振り返り、スケールの大きな考え方ができる。                         | 与えられた情報を整理できる。                                       | 目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に振り返り、考えることができる。          | メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。                    | 現象や課題の形を捉えながら、広い視野・大きなスケールで既知の事象について批判的に考え、本質を追求することができる。    | 未知のことについても取り扱う考え、自分の考えや常識にとらわれず、本質的・相対的な問いを立て、多面的に考えることができる。    |
|                                                                 | C-2 | 創造力<br>自分や周りの見方や好奇心を持って試行錯誤し、社会に新たな独自の価値を創造することができる。                 | アイデアを生み出そうと、自分なりの見方や考え方に基いた観察や思考を行うことができる。           | 好奇心をもって、他者との違いを羨しみながら自分なりのアイデアを生み出そうと行動できる。      | 目の前の課題に対して、これまでで得た知識や技術を活かしながら、自分なりのアイデアを表現しようと行動できる。           | 行動する中での出会いから得られた知見や発見を取り入れ、自分なりのアイデアを社会的に価値あるものに集めることができる。   | 試行錯誤(創造のスパイラル)を繰り返しながら、価値を更に創出させ、社会に新たな独自の価値を創造することができる。        |
| 技能(スキル・コンピテンシー)<br>Skills "How we use what we know"             | D   | 協調・協力力<br>どのような場でも他者ことなく自分の考えを発信でき、他者の声を受け入れる。                       | 自分の意見や考えを、他者の前で話すことができる。                             | 突然打ち切られたときでも他者、他者の前で自分の意見や考えを相手に伝えることができる。       | データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。                            | 多様な人々へ、相手の立場や背景を考えた上、テクノロジーを活用したりしながら、分かりやすく伝えることができる。       | 多様な人々へ、他者ストーリーを持って前に出る形で説明力ある発信を行い、共感を得ることが出来る。                 |
|                                                                 | E   | 他者との協働力<br>異文化・異なる感覚の人・異年齢等を取り入れ、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。         | 他者や他者の中で、決められたことと指示されたことにより一人で取り組むことができる。            | 他者や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。 | 他者や他者の中で、他者の良さに共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進め合意形成を目指すことができる。 | 他者や他者の中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を築くことができる。                | 分析・対立、文化・価値観を超えて、社会を安んずる行動にうつし、互いに高めあう関係としての関係をつくれる。            |
| 人間性(キャラクター・センス)<br>Character "How we engage in the world"       | F   | マネージメント力<br>自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。                            | 指示を受けながら作業を実施できる。                                    | 指示を受けながら作業を実施し、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。      | 全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対応することができる。             | 作業の量や、全体スケジュールを把握し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担して目標に向けた行動ができる。        | 今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。                |
|                                                                 | G   | 前向き・チャレンジ<br>自分を意味ある存在として考え、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず実行できる。 | 自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。                   | 自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。       | 他者や他者の中で、自分の役割を見つけ、個性を活かし、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。           | 困難にぶつかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。          | 困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。                         |
| 社会性<br>Sociality "How we connect with others"                   | H   | 寛容さ<br>異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやりある接し方を持ち、協調して共に高めようとするができる。              | 他者や他者の中で、他者を拒むことができる。                                | 他者や他者の中で、相手の立場や考えを尊重し、共感できる。                     | 他者や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の非善を考慮することができる。                         | 考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを減らし、社会や環境の変化を前向きに捉えられる。     | 考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。               |
|                                                                 | I   | 能動的市民性<br>社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。                 | 所属する他者の一員としての自覚を持つ。                                  | 社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える課題に目を向けようとする。               | 社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。             | 社会に貢献しようとする意識と自分の価値観を持ち、自ら社会に貢献を及ぼそうとする。                     | 社会・未来をより良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に届けることができる。                   |
| 自らを振り返り深めていく力(メタ認知)<br>Metacognition "How we reflect and learn" | J   | 自分を省みる力<br>自分の行動や行動を振り返り、次に改善しようとする意識を持ち、次の行動や、将来の夢に繋げることができる。       | 自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。                       | 自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。               | 自分の目標に近づこうと努力し、自ら行動することができる。                                    | 自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で振り返り、修正しながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。 | 社会の中での自分の役割や意識を振り返り、自分の目標と現実の差を見つめ、次の行動につなげて取り組むことができる。         |



全教職員で、育てていく力を設定  
⇒教員研修会「未来研究会」で共有  
(H27年4月…開校してすぐ)



教員研修会「未来研究会」で改訂  
生徒像の変化に合わせて再検討  
思考・創造力を思考力・創造力の  
別項目にし、レベルの文言を修正。  
(R3年10月…創立6年目)

# I-4 WWLコンソーシアム構築支援事業

研究開発  
構想名

原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を  
創造するグローバル・リーダーの資質・能力の育成

目的

- ① 本県から東北地区に展開するグローバル人材育成の  
アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成
- ② 探究・海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発
- ③ 地域や世界の課題解決に貢献する人材の育成
- ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」  
の相乗効果創出

育成  
人材像

地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性  
立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力  
地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力

機構・地域・大学等と  
協働したグローバル課題  
解決探究プロジェクト

事業協働機関

福島国際研究教育  
機構 (F-REI)

- ・ 探究への専門的助言
- ・ 研究者と生徒による  
協働プロジェクト
- ・ キャリアカフェ

東北大学

- ・ より高度な探究へ向  
けての専門的助言
- ・ 生徒主催双葉郡FWへの  
大学留学生の参画
- ・ 大学授業先取り履修  
と単位認定

早稲田大学

- ・ 探究への専門的助言
- ・ 協働での創造的復興  
探究プロジェクト  
[ふくしま学(楽)会等]

福島大学

- ・ 個に応じた探究へ向  
けての専門的助言

福島イノベーション・コースト  
構想推進機構

- ・ 地域課題探究への専門  
的助言

NPOカタリバ

- ・ カリキュラム共同開発

連携

シームレスな横のネットワーク

④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出

③ 福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出

大学教育の先取りによる  
高度な学びの実施

- ・ 大学と連携したアドバンストプレ  
イスメントの導入  
「学問論演習など」(東北大)
- ・ その他文理横断的な高度な学び  
(東北大・早稲田大学)

福島をフィールドとした  
グローバル探究

- ・ 大学連携による文理融合した高度な  
学問との接続を強化した探究カリ  
キュラムの実践
- ・ 地域課題の取材と演劇を通じて、  
「創造力」等の資質・能力を強化
- ・ アカデミックライティング等の  
スキル育成強化

世界をフィールドとした  
グローバル探究

- ・ 探究ゼミと連動したプロジェクト  
型海外研修
- ・ オンライン・対面でのグローバル  
課題探究授業連携
- ・ 生徒主催の双葉郡FW(東北大、  
UNIS)
- ・ 外国人指導者等によるグローバル

連携

高校生国際会議の  
開催(国連関係者・  
海外連携校等参加)

連携校(海外)

国連本部

Civil Society Unit

世界の課題の最前  
線で向き合っている  
国連職員と意見  
交換、議論を行い  
福島の課題と世界  
のつながりを構造  
的に理解する。

国連国際学校  
UNIS(アメリカ)

「持続可能な社  
会づくり」をテ  
ーマに地球規模  
での課題につい  
て世界の同世代  
と意見交換、議  
論を行う。  
差別や対立・分  
断について米  
国の現状を学び  
乗り越える方策  
を探る。

② 探究を軸としたカリキュラム編成と海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発

原子力災害・  
伝承探究ゼミ

原子力災害からの復興や廃炉など福島固有  
の問題を軸にしながら地域社会の在り方を  
探究する。

共生社会探究ゼミ

地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス  
(健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境  
の豊かさ)について探究する。

地域社会・  
経済産業探究ゼミ

断絶してしまった地域コミュニティの再構築  
について、生業や農工商などの産業振興や  
社会システムの観点から探究する。

人間科学・文化・  
芸術探究ゼミ

人間の心理・行動の分析や、人間が生み出  
す芸術・アートを生かした社会のあり方  
について探究する。

自然科学・  
地球環境探究ゼミ

研究開発拠点が集中する地域特性を活かし、  
自然現象の真理や、人間社会と地球環境との  
関係性を探究する。

スポーツ医・  
科学探究ゼミ

スポーツ医・科学に基づいたハイパフォーマンス  
の実現や、トップアスリートの育成にお  
ける社会環境等について探究する。

事業拠点校：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

連携校(県内)

福島県立福島高等学校  
福島県立安積高等学校  
福島県立会津高等学校  
福島県立津学鳳高等学校・中学校  
福島県立磐城高等学校

① 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成

- 構想目的の共有
- カリキュラム改革(探究カリキュラム強化)
- 連携大学AP科目履修
- 教員指導力向上

管理機関  
福島県教育委員会

宮城県仙台二華中学校・高等学校  
山形県立東桜学館中学校・高等学校

連携

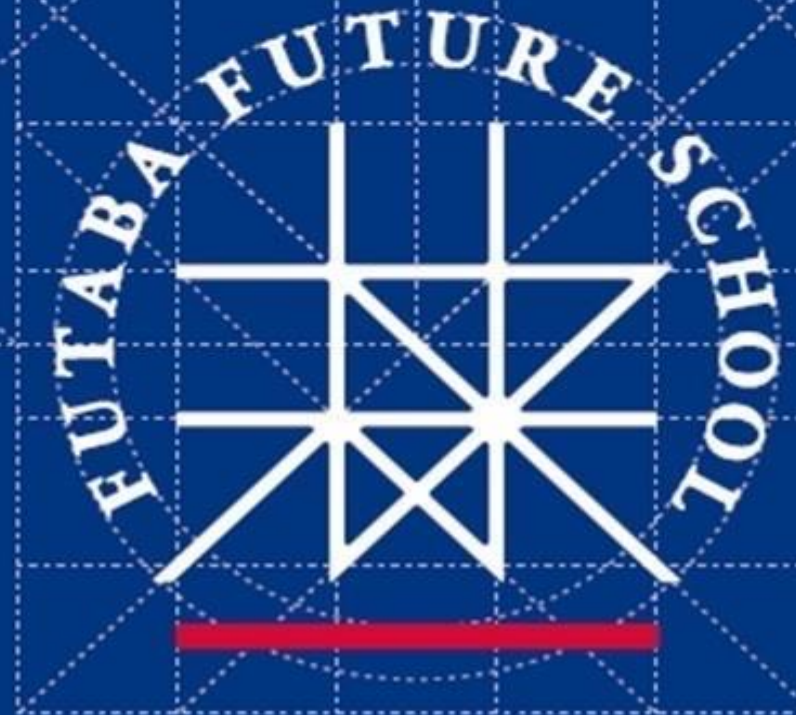
連携校  
(県外)

緊密な「横のネットワーク」



## 2 未来創造探究の10年の変化

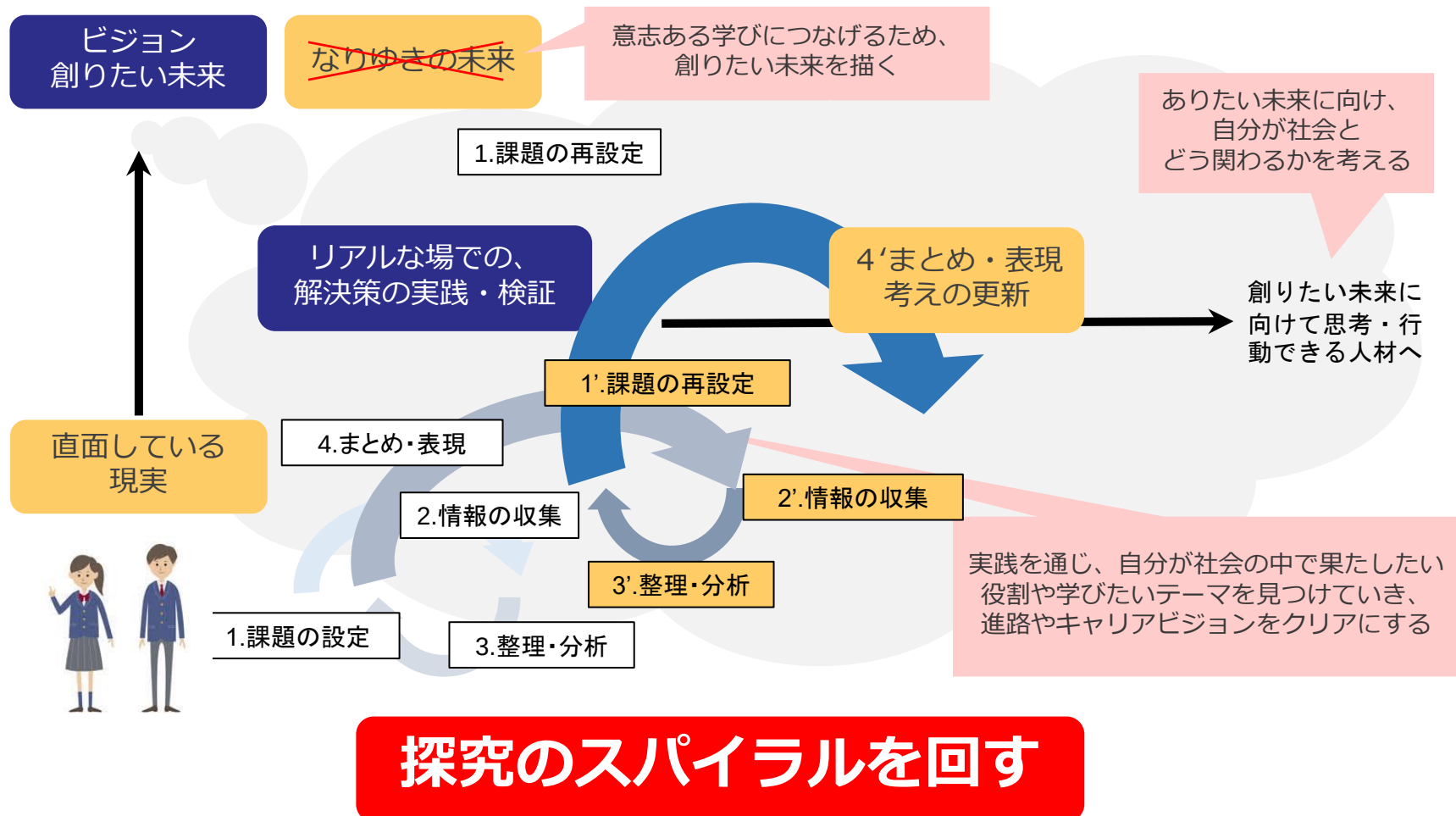
- 2-1 未来創造探究とは(概要)
- 2-2 未来創造探究の3年間の  
タイムスケジュール
- 2-3 未来創造探究の4つの特徴
- 2-4 未来創造探究オリエンテーション
- 2-5 未来創造探究のコアとなるもの
- 2-6 10年間の探究指導の  
注力ポイントの変化



# 2-1 未来創造探究とは(概要)

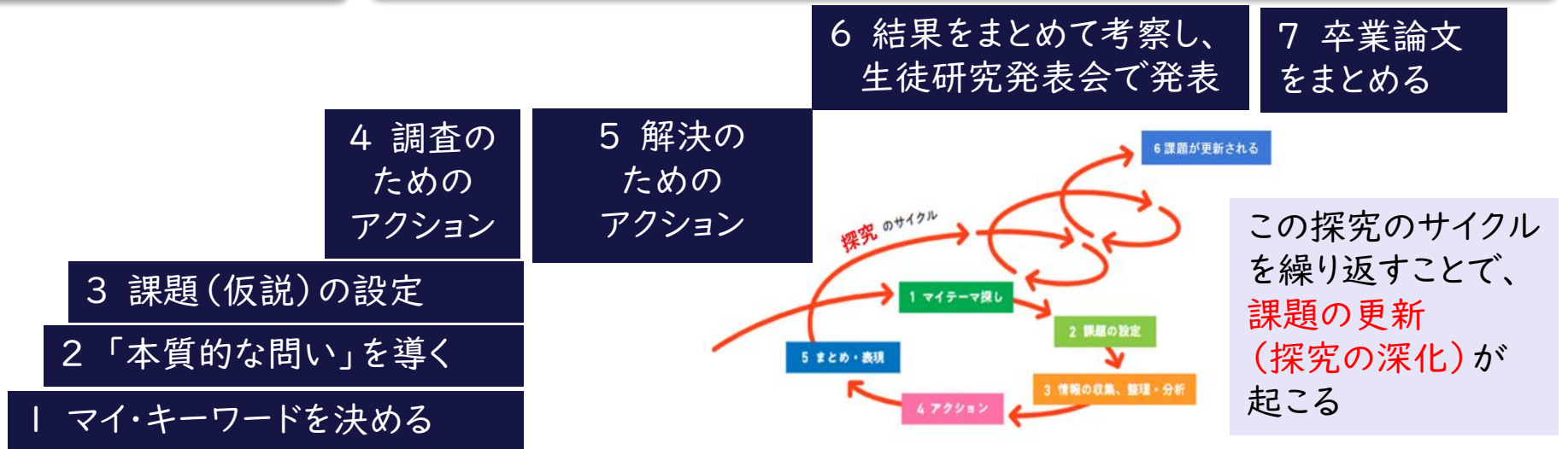
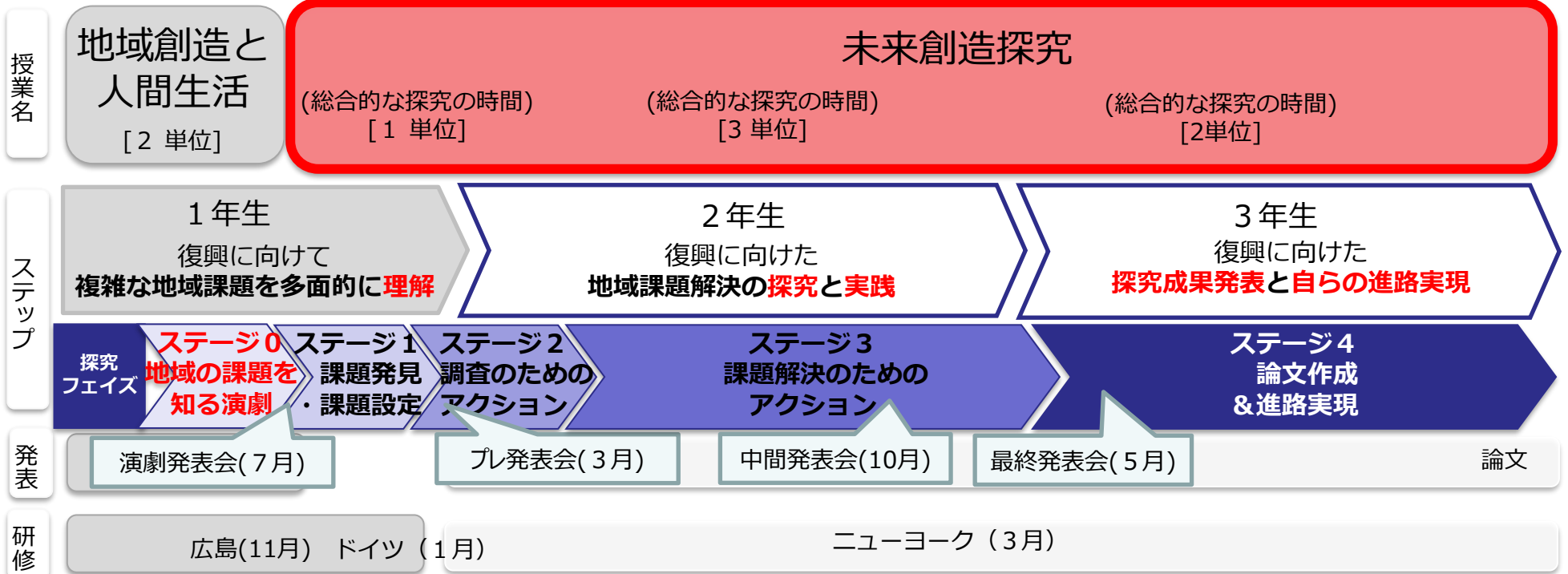
生徒ガイダンス用

意志ある創りたい**地域(社会)の未来**を考え、  
その為に解決すべき**課題**の設定・解決策の**実践を繰り返す授業**です。





# 2-2 未来創造探究の3年間のタイムスケジュール



## 2-3 未来創造探究の4つの特徴

### ① 演劇の力で地域の課題を知る学習に取り組む

○受動的な学びから創造的な活動へ転換していく

生徒たちは外部に正解を求めるのではなく、感性と想像力を働かせながら自ら環境に働きかけ創造していく。そのプロセスでは混沌とした世の中を観察し、前例やタブーに囚われずに、組み合わせたり試したりと対象をいじくりまわす(TINKERING:思い付くままにあれこれ工夫を重ねて改造を行っていく)ことに没頭し、そして新たな気付きを得て、また試行錯誤を重ねていく。



『私は、わ、木なの。私はのびていくの。これが枝で、これは葉っぱなのよ。』女の子は両手をゆっくりとあげ、指をひろげる。「ほら、風が私を揺すっているわ。』一すると『木』はかたむいて、指の葉っぱがふるえはじめる。』子どもたちにとって演劇が身近であるもう一つの理由は、演劇と遊びがいろいろな面で結びついているからです。(中略)子どもたち自身で作品をつくり、即席で演じるとか、あるいは脚本をつくるか、即席で役をつくってしまうとか(中略)これは全体的で興味深い遊びの準備ともいえますし、またその一部でもあるからです。(中略)子どもたち自身が自分の手で、即興的につくった脚本の方が子どもの理解にとって身近なものになるわけです。

エリ・エス・ウィゴツキー、『子どもの想像力と創造』、新読書社、2002

### ② 文理融合型の6つのゼミ編成

原子力災害  
・ 伝承探究ゼミ

共生社会  
探究ゼミ

地域社会・経済  
産業探究ゼミ

人間科学・文化  
・ 芸術探究ゼミ

自然科学・地球  
環境探究ゼミ

スポーツ医・  
科学探究ゼミ

### ③ 調査アクションよりも探究アクション重視！

■アクションで使う「動詞」は36個！

歴代のふたば未来学園生が  
取り組んできたアクションを類型化

|               |             |      |           |             |           |
|---------------|-------------|------|-----------|-------------|-----------|
| 話す<br>語る      | 作る          | 描く   | 行く        | 聞く          | コラボ<br>する |
| 企画する<br>開催する  | 食べる         | 見る   | 主張する      | まとめる        | 真似する      |
| 集める           | 提案する        | 観察する | 読む        | 見つける        | 紹介する      |
| 測る<br>分析する    | 探す          | 伝える  | 乗っかる      | 手伝う         | 教える       |
| 会う<br>交流する    | 売る          | 弾く   | 復活<br>させる | つなげる        | 収集する      |
| 変える<br>アレンジする | 育てる<br>栽培する | 数える  | 比較する      | 試す<br>やってみる | 撮影する      |

### ④ 学びの最終成果の形を自分で決める(最終発表会)

○コンテスト部門

○ポスターセッション部門

○対話交流部門

自分の最も適切な  
表現方法を  
自分で決める

⇒本校 **卒業生** もポスターセッション発表も行う  
卒業生企画「卒業したって探究は続くんです」

⇒WWL採択後は**連携校の発表**も行う

(R6年度 福島高校、磐城高校、会津高校、仙台二華高、東桜学館高) 10

# 2-4 未来創造探究 オリエンテーション

未来創造探究オリエンテーション:今日のテーマ  
「未来創造探究はどんな学習活動なのか？」  
「そのために自分自身は何を大切にしたい取り組むのか？」

知識構成型ジグソー法  
を活用して、  
「協働的な学び」を実現

Aパート  
「総合的な探究の時間」とは？  
⇒学び方に注目

Bパート  
地域と探究のつながりとは？  
⇒スクール・ポリシーに注目

Cパート  
先輩の言葉  
⇒スクール・ポリシーに注目

Aパート：中学の総合的な学習の時間との違い

| 項目     | 中学(未来創造学)                | 高校(未来創造探究)                        |
|--------|--------------------------|-----------------------------------|
| 探究の進め方 | 配属された4町村の中から生徒がテーマを自由に決定 | 生徒が自分だけのテーマを発見・設定                 |
| 目指すこと  | 地域の魅力発信                  | 課題解決の実践を通して、スキルや姿勢を身に付け、将来について考える |
| 活動単位   | 原則グループ                   | 原則個人だが自由                          |
| 地域への連絡 | 先生が連絡                    | 生徒が取ること                           |

→一番の違いは、「自分だけのテーマ」を設定すること。

なぜふたば未来学園は探究を大事にしているのか

国校の背景

震災により双葉郡に元々あった5校は休校に。  
新しい学校をつくる構想へ。

どんな教育が必要か？

「豊かな社会とは何か？」  
既存の価値観や社会の在り方を見直したり、  
新たな社会像を描ける人材育成を目指す。

ふたば未来学園が目指す教育

自らを革新し 地域を革新し 社会を革新する  
「変革者」を育成する



Cパート：先輩の動画のまとめ

- まずは自分の「好き」や「興味あること」から始めてOK
- 「地域」とは身近な人が作る「社会」のこと
- 地域と繋がるきっかけはそのあとつかんで行けばいい

未来創造探究に  
込めた想い

誰かに  
与えられる人生

自分で  
探す/  
つくる人生

## 授業後の生徒の感想

(3)個人で今日の話の中から、大切にしたい/すべきと思った言葉を3つ書き出そう

・テーマ(問い)は変わるのかあたりまえ、  
・自分の「好き」「興味」から始めるのもOK、  
・自分からどうなりたいか、変わりたいかが大切、

(3)個人で今日の話の中から、大切にしたい/すべきと思った言葉を3つ書き出そう

① 自分だけのテーマを決める！  
② 私が考える「豊かな社会」を実現する  
ために私自身はどう関わって  
生きていきたいか。  
③ とりあえずやってみよう。



## 2-5 未来創造探究のコアとなるもの

探究の  
スパイラル

- 自らの「好き」や「興味関心」 (Will) を出発点にして
- 地域や社会の課題 (Need) とつながる、自分なりの問いを設定し
- 各教科で身につけた力が探究の見方・考え方を発揮しながら、解決に向けた実践（アクション）を重ねる ⇒ 教科と探究の往還
- 問いを更新しながら何度も試行錯誤する



探究を通して  
身につけること

- 混沌とした実社会で未来を創造する資質・能力の獲得
- 自らの在り方生き方や、創りたい地域・社会を見出す

福島 of 課題に取り組むことは世界の課題に取り組むこと  
(グローバルな社会課題)

# 2-6 10年間の探究指導の注力ポイントの変化

## 探究指導 模索期

上位層の生徒を  
伸ばす指導

震災後の心のケアを  
必要とする生徒への  
学習指導・生活指導

1～3期生 **SGH5年**  
H27～H29年度入学生

## 探究指導 成熟期 組織的指導体制の充実

- エッジの効いた探究の減少
- 学習・探究に疲弊感を感じる生徒の増加

- 中間層の多様さ
- 探究の質の向上

4～6期生 **グローバル型3年**  
H30～R2年度入学生

## 探究指導 質的転換期 探究での生徒の学びをを最大化

- 高度な学びを届ける仕掛け

・東北大学『学問論演習』  
・早稲田大学『IF地域塾』『地域未来塾』

- 探究学習のスキルアップ

・専門知識 × 探究スキル  
・輪読など調査アクションのスキル強化

- 系列の特性に合わせた  
学びのデザイン

トップアスリート系列  
競技力向上 × 探究  
栄養・食事 × 探究 × MOOC

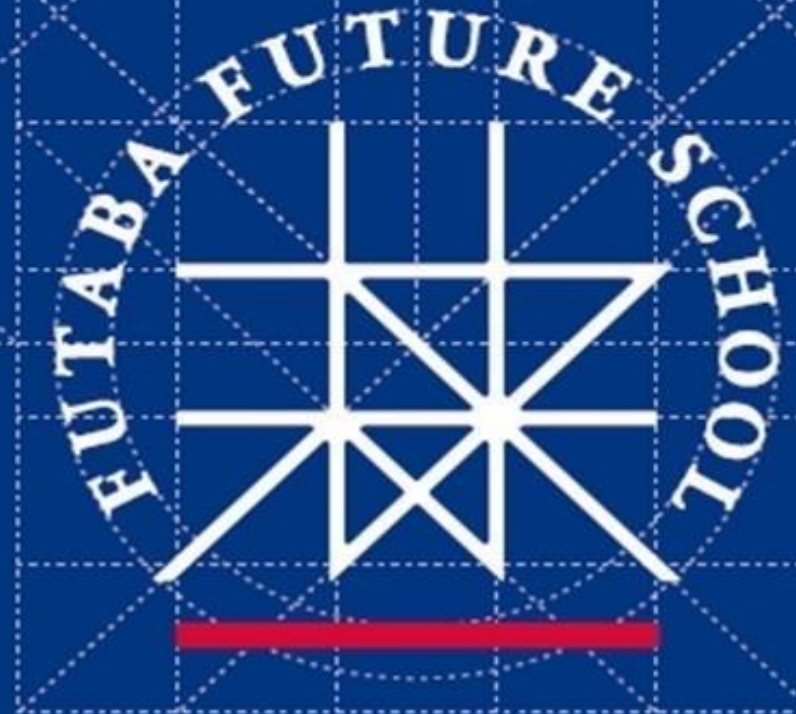


競技力向上  
×  
海外交流  
×  
探究

7期生～ **WWL3年**  
R3年度入学生

### 3 高度な学びを届ける仕掛けづくり

- 3-1 東北大学との連携
- 3-2 早稲田大学との連携
- 3-3 福島大学/会津大学との連携
- 3-4 カタリバとの連携
- 3-5 プロジェクト型海外研修
- 3-6 WWL事業連携校との協働





# 3-1 東北大学との連携（東北大学未来科学技術共同研究センター）

## ① 東北大学「学問論演習」への参加

東北大学の1年生向けに開設された講義「学問論演習」（後期週1コマ）を大学生とともにオンラインで受講する。  
参加生徒：ふたば未来学園5名、福島高校8名  
中瀬博之准教授「グループディスカッションと  
アイデア整理のスキルアップ講座」  
→今年度後期は「学問論演習」の講座を拡大する予定。  
⇒参加校もWWL連携校も参加



校内でのオンラインでの講義の様子

## ② 大学模擬講義 → 探究指導へブリッジ

未来科学技術共同研究センターの先生の模擬授業

|                      |                                                           |
|----------------------|-----------------------------------------------------------|
| 猪股 宏<br>特任教授         | 地球温暖化と二酸化炭素<br>～CO2は悪者でない、カーボンニュートラルでの役割～                 |
| 植松 康<br>特任教授         | 過去の強風災害に学ぶ<br>ー地球温暖化に伴う台風の大型化に備えてー                        |
| 大村 達夫<br>シニアリサーチフェロー | 社会インフラの整備とエコロジカル・ネットワーク再生による<br>健全生態系の保全～河川流域を事例として～      |
| 川添 良幸<br>シニアリサーチフェロー | 常識を破る一月は地球の衛星ではないー                                        |
| 圓山 重直<br>特任教授        | 巨大システムにおける安全神話の崩壊<br>ー原発事故から学んだこと、航空機や新幹線から<br>学ぶべきだったことー |

たたら製鉄で  
作り出した鉄の  
成分分析を  
大学に依頼

局地風に関する  
探究のご指導を  
いただく



東北大学での学問論演習発表会にて  
大学生とともに代表発表

# 3-2 早稲田大学との連携（ 早稲田大学ふくしま浜通り 未来創造リサーチセンター ）



## ① 「ふくしま学（楽）会」など各種研究会の開催 （地域知・専門知への接続）

半年に一度双葉郡内で開催されている早稲田大学とふたば未来学園が主催している「ふくしま学（楽）会」…福島県の復興と廃炉について、中学生・高校生・地域の大人・NPO・地域組織、国や行政機関、大学・研究機関など多様な大人が集まって考える「対話」の場を作る

**IF地域塾** …地域の多様な方々が「IF廃炉の先」の選択肢について共に考え、語り、学ぶ場をつくる

これまで生徒が30プロジェクト以上発表  
（2024年1月までに13回開催）

## ② 探究活動への協力（専門知への接続）

中学校「未来創造学」、高校「未来創造探究」での生徒プロジェクト一覧を基に、適切な助言者（専門家）を紹介いただき、助言やプロジェクトの支援をいただくとともに、生徒の発表会でも講評・審査にも専門家の視点で参画いただく。



生徒の探究内容について大学の先生方が助言・支援



「ふくしま学（楽）会」で多様な主体で議論を深める



生徒たちの探究の加速  
（事例「H30 高校生と考える廃炉座談会」）



# 3-3 福島大学/会津大学との連携

## 福島大学

### ① 専門知講義による探究学習のスキル強化

福島大学「地域×データ」実践教育推進室と連携して、探究学習のスキルアップを行う。

- 東日本大震災の教訓の伝承
- アーカイブ・メディア論
- 社会調査の方法論
- オープンデータの活用方法
- 地域経済・フィールドワークの技法

### ② 定期考査時の学習支援 (放課後の学習支援・大学生による学習ボランティア)

## 会津大学

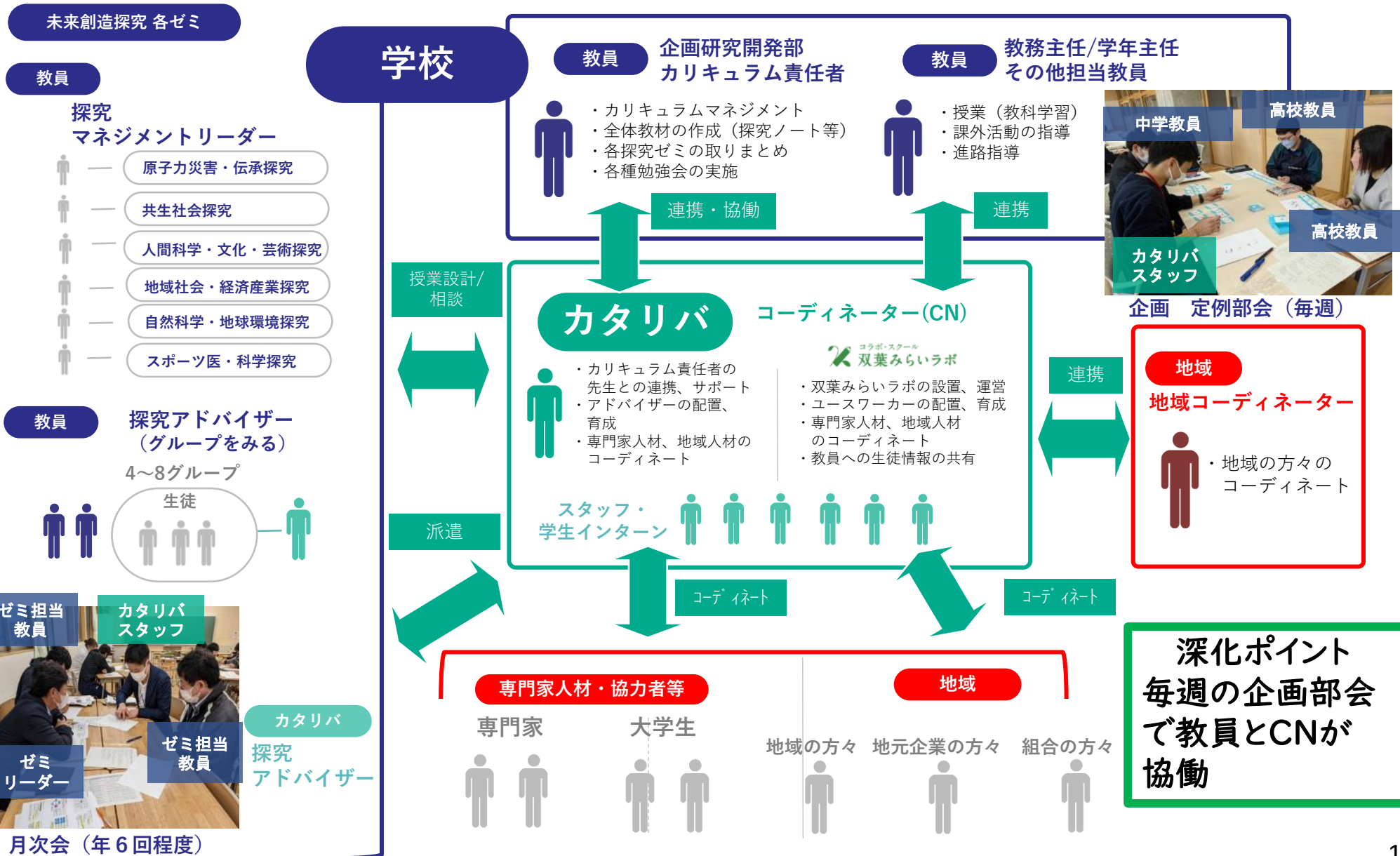
### ① 会津大学の留学生との 双葉郡合同フィールドワーク

東日本大震災・原子力災害伝承館や請戸小学校跡地などの被災状況を学び、また福島ロボットテストフィールドや浪江水素ステーションなどの復興後の新産業についても学ぶ。同世代の大学生と交流することで、福島の過去を踏まえつつ、未来をどのように作り上げるかを議論し、提言をまとめる。

- ・本校の海外研修参加者の事前研修としての位置付け。
- ・本校に来ている海外からの留学生もこのプログラムに参加



### 3-4 カタリバ(双葉みらいラボ)との連携





# 3-5 プロジェクト型海外研修

地域課題解決の実践から見出した、「持続可能な世界実現」への提言を世界で発信。  
 福島県の課題とグローバルな課題を重ね合わせてディスカッションし、地域に還元。

## コロナ禍における 海外研修

ドイツ(高校1年)

⇒徳島県上勝町研修&VRホームステイ

ニューヨーク・

国連本部(高校2年)

⇒双葉郡バスツアー



## 2022年、3年ぶりの海外研修実現!!

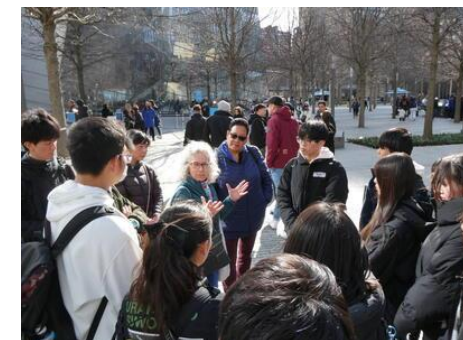
海外研修(ニュージーランド) 中学3年生  
 (一貫一期生先遣チーム)



海外研修(ドイツ研修)



NY研修



9. 11家族会訪問やコロンビア  
 大学での交流など海外研修の  
 内容を自分で決める

+

UNIS-UNとの交流

# 3-6 WWL事業連携校との協働

## 〇WWLコンソーシアム構築事業以降、相互交流が加速



START2023(国際プレゼンテーションコンテスト)  
山形県東桜学館中高との連携 2023年7月



未来創造探究生徒研究発表会  
宮城県仙台二華中高との連携 2023年9月



安積高校SSH発表会参加  
福島県安積高校との連携 2023年10月

### 〇 その他

- ・ 福島高校 探究発表会(本校生発表)
- ・ 宮城県仙台二華中学校・高等学校 学校交流会
- ・ ふたば未来学園 探究発表会  
(福島高校、磐城高校、会津高校、  
宮城県仙台二華中高、山形県立東桜学館中高来校)
- ・ 福島高校 SS探究 授業公開(本校教員参加)
- ・ 安積高校SSH研究発表会(本校生・教員発表参加)

個別最適な学びと協働的な学びの  
一体的な充実の解決に向けて

## 重要な気づき

WWL事業によって、  
コンテンツのシェアが図られる



最終的にはコンピテンシー(資質・能力)  
開発能力もシェアできる

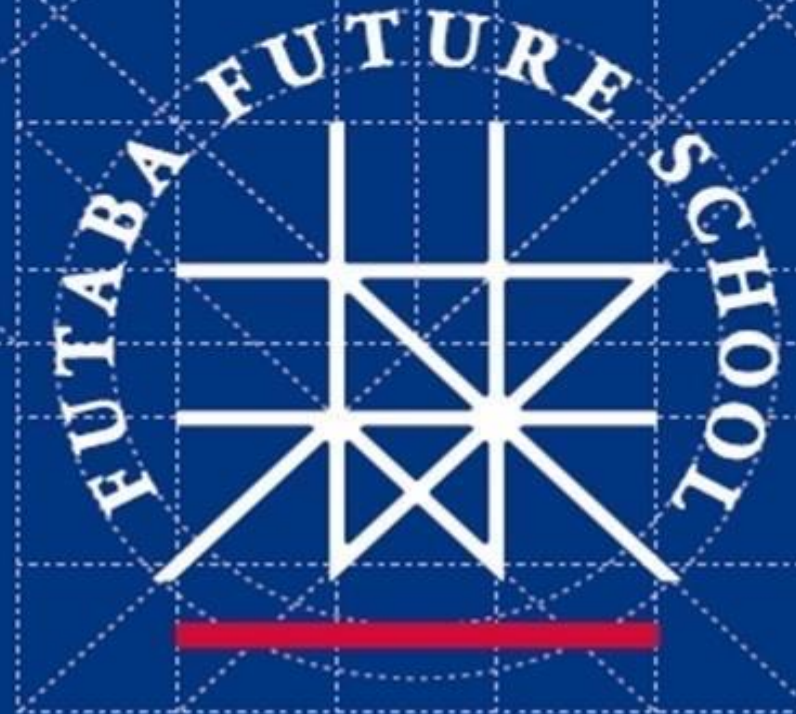


学校のリソースの共有が鍵



## 4 指導体制の確立（教員研修）

- 4-1 学び合うチームへ（未来研究会）
- 4-2 機動力ある会議体が  
探究を支える
- 4-3 探究フェイズに応じた教員の  
関わり方モデルの構築
- 4-4 校内チームから福島ALネット  
ワークへ





# 4-1 学び合うチームへ（職員研修「未来研究会」）

**OJTが発揮しやすい  
状況を作る**

## ○ 昨年度の「未来研究会」～探究の効果的な伴走について～



全体で本日の目標を確認



様々な教員まぜこぜでワークショップ型



職員休憩スペースで成果を共有

## ○ 外部講師来校時に教員研修を設定 ○ その他



生徒研究発表会のゲストを交えて  
「大人の探究交流会」



基本、研修はWS型



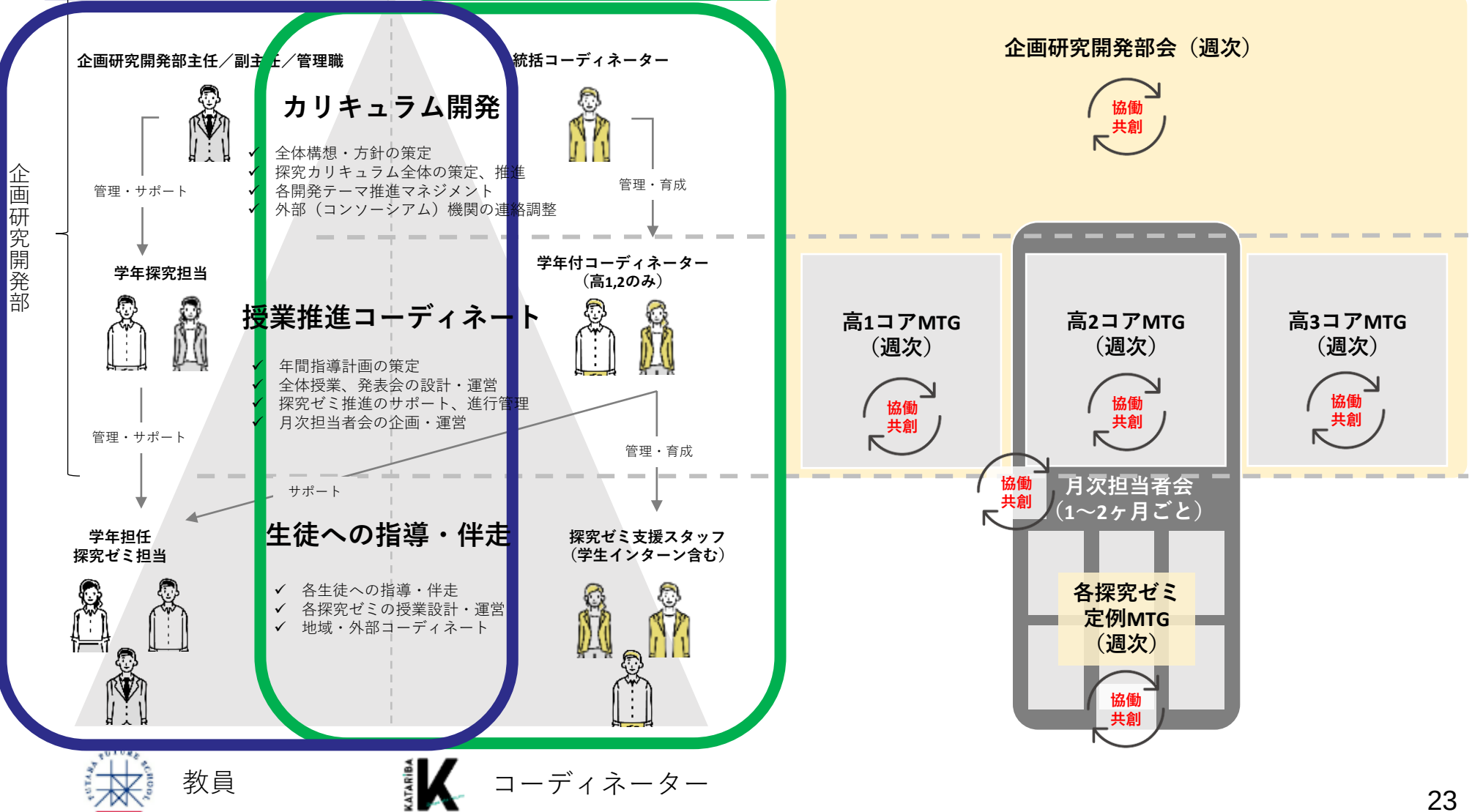
感染症による休校下において、  
オンライン授業の普及のための  
各校教員向け研修会を複数回実施  
(県内中高、特別支援より参加)

## 4-2 機動力ある会議体が探究を支える

**企画研究開発部**

## CN(カタリバ)

## でも、究極のMTGは「立ち話」！



# 4-3 探究フェイズに応じた教員の関わり方モデルの構築

| 探究フェーズ | Stage1                          | Stage2(1)                      | Stage2(2)                                      | Stage3                                                          |                         |                         | Stage4                       |
|--------|---------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------------|
|        | 問題発見<br>課題設定                    | 現状分析                           | 解決仮説                                           | 解決アクション①<br>考察<br>新たな課題                                         | 解決アクション②<br>考察<br>新たな課題 | 解決アクション③<br>考察<br>新たな課題 | 考察<br>論文作成<br>進路実現           |
| 探究内容   | ・問立て<br>・研究動機<br>・目標設定<br>・哲学対話 | 調査<br>調査のための<br>アクション<br>整理・分析 | 解決のためのアクション<br>仮説<br>構造化し他の問題・課題<br>との関係性を知ること | ・解決のためのアクション<br>・より本質的な問題の発見<br>・具体的な解決アクション<br>・考察<br>・新たな課題設定 |                         |                         | ・考察<br>・論文作成<br>・提言<br>・進路実現 |

| カリキュラム<br>段階                                        | 人生／2年次生前期                                                                   | 2年次生後期                                                                            | 3年次生前期                                                         | 3年次生後期 |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------|
| 【生徒】<br>各変容<br>フェーズ<br>における<br>望ましい<br>具体的態度<br>や行動 | <b>「守」：受容的な<br/>姿勢</b><br>正確に物事を知り<br>探究の<br>基礎を作る                          | <b>「破」：生成的な<br/>姿勢</b><br>柔軟に他の問題と<br>繋がたり<br>想像力を働かせる                            | <b>「離」：持続的に<br/>取り組む姿勢</b><br>リスクを恐れず<br>チャレンジ<br>実践を連鎖させる     |        |
| 【教員】<br>担当者の<br>働きかけ                                | <b>インストラクター</b><br>(現状を正しく捉えさせる)<br>・知識のレクチャー<br>・調査研究（書籍/WEB/インタ<br>ビューなど） | <b>ファシリテーター</b><br>(問いを立てて引き出す)<br>・問いを通してテーマを深化させる<br>・生徒自身が本当に取り組みたい実<br>践を引き出す | <b>メンター</b><br>(応援・勇気づけをする)<br>・実践への勇気づけ<br>・実践後の振り返り（リフレクション） |        |
| <b>ジェネレーター</b><br>(自らも発言し発見とコミュニケーションを生成する)         |                                                                             |                                                                                   |                                                                |        |



# 4-4 校内チームから福島ALネットワークへ

○カタリバと協働し、教員研修会を開催  
(対象校：県内WWL連携校5校+希望校5校)



- 主な研修内容
  - ・未来創造探究授業見学
  - ・ワークショップ
- 資質能力を伸ばさせるための探究カリキュラムづくりのポイント
- ・各校協議
- ・参加校同士の意見交換



- 各校ともに管理職、探究主任、探究担当者の複数名のチームで研修に参加
- ↓
- 各校ごとにスクール・ミッションを吟味する

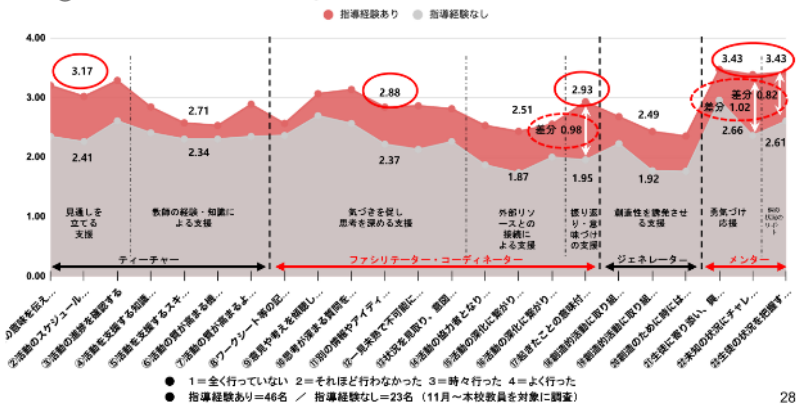
【成果4資料①】探究指導の際の教員ロール・関わり①

深化ポイント  
探究指導のロールと関わりを言語化

| 生徒の探究Stage                                         | Stage 1                                                                                                                                                                                                  | Stage 2 (1)                                                                                                                                                                                              | Stage 2 (2)                                                                                                                                                                                              | Stage 3                                                                                                                                                                                                  | Stage 4                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教員のロールと関わり                                         | 詳細ガイダンス<br>課題設定                                                                                                                                                                                          | 切迫分析                                                                                                                                                                                                     | 解決策案                                                                                                                                                                                                     | 解決アクション①                                                                                                                                                                                                 | 解決アクション②                                                                                                                                                                                                 |
| ティーチャー・インストラクター<br>(答を持って教える)                      | ▼見通しを立てる支援<br>① 活動の意図を伝え、目的を意識させる<br>② 活動のスケジュール作成を支援する<br>③ 活動の進捗を確認する                                                                                                                                  | ▼教師の経験・知識による支援<br>① 活動を支える知識・情報を提供する<br>② 活動を支えるスキル・手段を提供する<br>③ 活動の質が高まる視点を設定する<br>④ 活動の質が高まるよう指導する                                                                                                     | ▼見通しを立てる支援<br>① 活動の意図を伝え、目的を意識させる<br>② 活動のスケジュール作成を支援する<br>③ 活動の進捗を確認する                                                                                                                                  | ▼教師の経験・知識による支援<br>① 活動を支える知識・情報を提供する<br>② 活動を支えるスキル・手段を提供する<br>③ 活動の質が高まる視点を設定する<br>④ 活動の質が高まるよう指導する                                                                                                     | ▼教師の経験・知識による支援<br>① 活動を支える知識・情報を提供する<br>② 活動を支えるスキル・手段を提供する<br>③ 活動の質が高まる視点を設定する<br>④ 活動の質が高まるよう指導する                                                                                                     |
| ファシリテーター・コーディネーター<br>(引き出す・つなげる)                   | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする |
| ジェネレーター<br>(生成的な参加者：Generative Participantとして協働する) | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする |
| メンター<br>(精神的にサポートする)                               | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする | ▼見通しを立てる支援<br>① ソーサート等の導入を促し、不足している視点に基づく機会をつくる<br>② 思考が深まる質問をする<br>③ 思考が深まる質問をする<br>④ 思考が深まる質問をする<br>⑤ 思考が深まる質問をする<br>⑥ 思考が深まる質問をする<br>⑦ 思考が深まる質問をする<br>⑧ 思考が深まる質問をする<br>⑨ 思考が深まる質問をする<br>⑩ 思考が深まる質問をする |

【成果4資料②】指導経験から見るロールの傾向

- ✓ 全ての関わりにおいて「指導経験あり」教員が経験のない教員を上回り、積極的に生徒へ関与。
- ✓ 経験あり教員は「メンター」「ファシリテーター」のロール発揮が強い傾向。
- ✓ 経験有無で最も差が出るのは「⑦未知の状況にチャレンジできるよう励まし実践を後押しする」「⑩振り返り・意味づけの支援」「⑨個々の状況に応じたサポート」



# 5 まとめ

- 5-1 WWL事業の成果  
(SGH・グローバル型からの深化)
- 5-2 まとめと今後の課題



## 5-1 WWL事業の成果(SGH・グローバル型事業以降)

---

### ① 連携・交流が進み、知見の蓄積が加速度的に深化

⇒全国各地の生徒数が減少し、学校のリソースが限られる中で、  
いかに学校のリソースを共有できるかが重要

⇒連携・交流の促進で平準化ではなく、各校の個性の発揮が重要  
「多様性への対応」と「共通性の確保」の議論より

### ② ふたば未来学園が獲得したもの

1 学ぶ／学ぶ続ける意欲の引き出すノウハウ ←「学習の個性化」

2 多様な学習機会

### ③ ふたば未来学園に足りないもの

1 生徒と教員の余白の時間（クリエイティブな活動を支える余白）

2 自ら学びをデザインする力



## 5-2 まとめと今後の課題:自律的な学習者を目指して

ふたば未来の新たな問い

減単した余白をどのように  
学びに転換するか？

ふたば未来学園の強み=10年間の探究学習で培ったもの

○**学びの意欲を引き出すノウハウ(①)**、**多様な学習機会(②)**

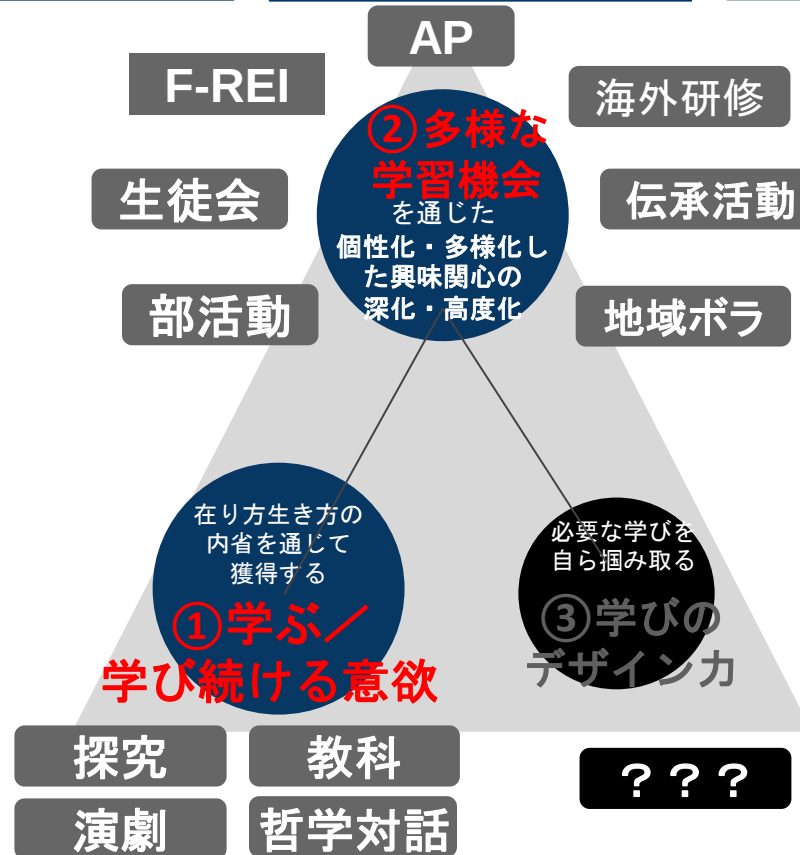
さらに追求したいもの

○生徒が自らに必要な学びを考えて決める「**学びのデザインする力(③)**」  
を育成する活動が不足しているのではないかという仮説

主体的な学びを支える  
意欲とデザイン力

対話と協働を体現する  
能動的市民性

探究を加速させる  
高度な知識技能



### キーワード

①-1.内省(リフレクション)

- ✓ 興味関心・内発的動機を基点とした学習
- ✓ 自己内省を通じた在り方生き方の深化

②-1.リソースシェア

- ✓ 外部機関、地域との連携
- ✓ 学校間連携による教師リソースのシェア

②-2.「越境」による多様な他者との対話と協働

- ✓ 「境界知作業者」
- ✓ 「総合知」による課題解決

③-1.「自律的な学習者」の育成

- ✓ 自己調整学習
- ✓ メタ認知
- ✓ 学びの統合

③-2.どの「場面」で育成するか？